



TITLE:

観測帳

AUTHOR(S):

中村, 要

---

CITATION:

中村, 要. 観測帳. 天界 1932, 12(133): 197-197

ISSUE DATE:

1932-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161956>

RIGHT:



## 観 測 帳



花山天文臺 中 村 要

**彗星** 年始めから新彗星は一つも見つからなかったが、週期彗星である Grigg—Skjellerup 彗星を早くも 3月6日ヤーキス天文臺の Van Biesbroeck 氏が発見した、光度は僅か16等との事である、推算は 3月15日から出て居るのであるから随分早く発見したものである。筆者は 3月末に探したいと計畫して居た所に報告が來た。場所はオリオン座で都合がよい。近く観測出来る様になるだらう。2 月中はずつと天氣が悪く長田彗星も探さずじまひであつた。

**トロイ群の新小遊星** 昨年12月31日ハイデルベルヒの Reinmuth によつて彗星狀の像として発見されたが、其後 Wolf. 及び Van Biesbroeck 氏等の眼視及び寫眞觀測の結果、小遊星である事が知れ1931 VAなる假名が與へられた。平均運動 292 秒の新しいトロイ群星である。軌道面傾斜は31度といふ大きなものである。

**129アンチゴーン** 小遊星(129)Antigone は5月4日に衝になる。

5月5日 14時 45.0分  $+6^{\circ} 14'$

日々運動  $-7.5$ 分  $+7.6$  光度 9.1等

此の小遊星は1873年2月 5日米國 Clinton に於て C.H.F Peters の発見した星である。

**クツク測微器の改造** クツク30センチ赤道儀の糸線測微器には Micrometer box の移動裝置がなかつたが、2 月中の曇天を利用して移動裝置がつけられた。暗視野照明、目盛等も改良され、今後は極めて早く正確に測定出来る様になつた。

**3月22日の月食** 花山では雪模様の影響で餘りよく観測出来なかつた。食甚で9割8分まで缺けて僅か残つた月は珍らしかつ

た。月食も度々見ると案外平凡であつて。此の間に暗い空を利用して外の観測でもした方がよささうだ。

**急速に運動する新小遊星** 獨ベルゲドルフ天文臺の Schwassmann Wachmann 兩氏は 2月28日の原板から急速に運動する新小遊星を発見した。花山で3月2日に 54 Leo を中心として撮影した原板の東南隅に入つて居る筈であるが寫野の端で像が悪くて見當らなかつた。

赤經 11時18分 赤緯  $18^{\circ} 56'$

日々運動  $-1.7$ 分  $-8'$  光度 12.2

1932DB なる假符號が與へられた。

**デルポート星** 白ユツクル天文臺のデルポート氏は3月12日赤經12時2分、赤緯  $+3^{\circ} 35'$  の點に日々運動  $+6.1$ 分  $+88'$  なる急運動の 9 等星(小遊星か彗星か不明)を発見15日にも觀測した。花山では 3月11日  $\lambda$  Vir を中心にして撮影した原板から惜しくも寫野を外れて居る。此の附近の二三の原板があるからあとで見つかるかも知れない。

**1930 SB** 1930年コマス、ゾラ氏の発見で花山二號である此の小遊星は Asplind によつて 1917年シメイス天文臺の Beljansky 氏の発見した  $\Sigma 94$  と同一星である事が分かつた。1930年の軌道要素に  $dM = -0.23$   $d\mu = +0.173$  の修正を加へれば 1917年の觀測とよく一致する。

**研磨室より** 改發氏の13センチ人像鏡玉は前玉を磨いてから、送つて來たフリント硝子がクラウン硝子と間違つて居た事が分かり、従つて新しい硝子の着くまで約3箇月作業を延期しなければならなくなつた。